

絵馬との出会い

会員 中野 正一（吉川市）

絵馬との出会いは、平成15年11月、吉川市郷土史会会長の平本英夫先生から地元自治体の広報誌に連載していた『吉川の石塔と信仰』が来年3月号で終了するので、4月号から『吉川の絵馬』の草稿を一緒に手伝ってほしいとの話を伺い、当初は辞退したものの地元の歴史や文化を知る機会を頂いたと思い承諾しました。しかし、絵馬に関する知識がなく、先ず地元郷土史会が平成元年に悉皆調査した『吉川町の絵馬調査概要』を基にして、翌年正月に平本先生にご同行頂き、市内の社寺に残されている絵馬を拝観しました。また絵馬研究の第一人者岩井宏実先生の著作や各自治体刊行の『絵馬の図録』を参考に概要を知る事が出来ました。

ところが、いざ原稿用紙800文字以内に纏めるとなると難しく、悪戦苦闘が続き、1年間続くかと心配でしたが、平本先生の的確なご助言とご指導により乗り切る事ができました。しかし、平成17年12月平本先生が突然他界されました。その後の連載は、教育委員会古文書担当の高橋紀子先生が引継ぎご助言とご指導を頂き、平成23年3月号まで続き、何とか無事に終了しました。

その間、平成18年3月には、高久の蕎高神社に明治23年（1890）12月奉納された大絵馬『商家河岸場の図』が、市の指定有形民俗文化財に指定されました。画題には、高瀬船を製作している工程が描かれ、材料を切る・運ぶ・組み立てる作業などを分担しています。左側には、中川（古利根川）と元荒川が合流した平沼河岸が描かれています。問屋の倉庫には、船荷が積み上げられ、停泊中の高瀬船から荷物の積み下ろしの板が渡されています。右側には、船造りを見守るように蕎高神社が鎮座しています。明治期の河岸場の様子を知る事ができる絵馬かと思えます。

市内の加藤や南広島の社殿に掲げられている『伊勢太々神楽絵馬』は、伊勢参宮に代参して道中の無事を感謝して奉納したものです。絵馬の図柄が同様であり、おそらく奉納者が絵馬師の持参した見本帳から選んで描写したものと思われる。

またかつて市内には、絵馬屋が存在しました。絵馬屋は、絵馬製作のほか、顧客の求めに応じて旗物・幟・地口行燈・大灯籠に貼る紙絵などを描いていました。鍋小路の天神社に奉納された『家族拝み絵馬』には、「吉川町絵馬屋作」とはつきり記されている絵馬を見る事が出来ました。なお余談ですが、高富の蕎高神社の社殿に明治14年（1881）奉納された『三重の塔絵馬』を眺めている時です。「その絵馬の奉納者は、私の先祖（曾祖母）です」と氏子の男性から声をかけて頂きました。何故かその絵馬が身近なものに感じられました。その後、お便りを頂きました。そこには、「当家4代目の妻女（明治40年9月27日に没）であるように思われました」と記されていて、貴重な情報を得る事が出来ました。

また一方では、社殿の建替えの際に沢山の絵馬が廃棄処分されたと伺いました。絵馬が永年の風雨にさらされて絵や文字が剥落して解読不明なものも見られました。非常に残念に思いました。絵馬の起源は、1200年以上も前の奈良期に遡ります。今日でも、初詣の際には、受験の合格や家内安全などの願いを絵馬に書き、奉納する光景を目にする事ができます。絵馬は、先祖から受け継ぐ貴重な文化財かと思えます。絵馬から学ぶ事も多くあります。今後も各地の社寺に奉納されている絵馬を拝観したいと考えています。

今後のイベントスケジュール

* 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 8月22日 (木) 円空仏研究会 第3回 <今号で紹介>
- 9月1日 (日) 古代文化を考える会 =新しい視点で学ぶ日本の古代史= <今号で紹介>
- 9月7日 (土) 古道探索倶楽部「第30回古道を訪ねて 日光道中その 3」 <今号で紹介>
- 9月20日 (金) プレミアム講座「“復興の足かせ”から“地域の宝”へ」 <今号で紹介>
- 9月29日 (日) 講演会「葛西城発掘によって明らかにされた攻防」 <今号で紹介>

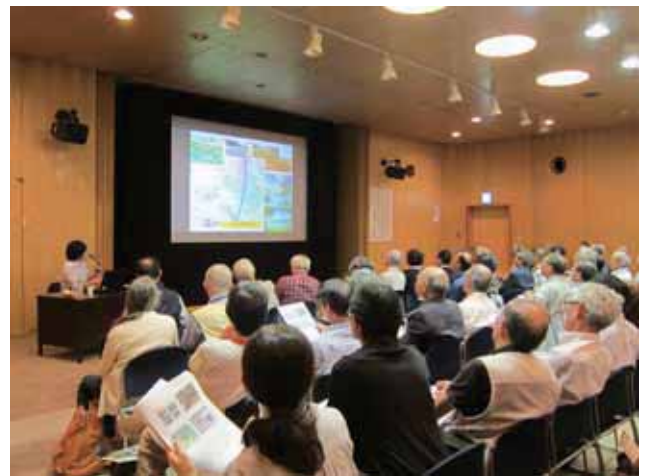
講演会・詳説「とっとり弥生の王国」

～「地下の弥生博物館」青谷上寺地遺跡と「甦る弥生の国邑」妻木晩田遺跡を中心に～
2019年(令和元年)7月7日に開催 138名が参加

鳥取市西部に広がる青谷上寺地遺跡は、現在は消滅した潟湖(ラグーン)のほとりの低湿地帯に形成された弥生の集落遺跡(2200年前の弥生前期後半に始まり、中期後半に最盛期、古墳時代前期には衰退する500年間にわたる遺跡)です。妻木晩田遺跡も隠岐諸島を望む丘陵上に展開する我が国最大級の集落遺跡(弥生中期後葉-紀元前1世紀-から古墳時代の前期初頭に至るまでの300~350年)で、両者とも国史跡指定の重要な遺跡です。

青谷上寺地遺跡からの遺物は土器の他、鉄器・青銅器、生活用具や精巧な木製品、殺傷痕のある人骨・脳、緑色顔料(東アジア最古)等多種多様で、情報量の多さは特筆され、「地下の弥生博物館」の異名を持つ。

更に天然の良港として、漁労活動や日本海を舞台にした対外交易の拠点として栄えた「港湾集落」の姿が窺えます。また妻木晩田遺跡においてはガラスや破鏡など外来交易品が多いこと、鉄器も多量に流通していたようで弥生時代の生活や交流の実態を具体的に示しているという。水村氏にはこの知り尽くした二つの集落遺跡の実態を、パワーポイント(119コマ)を使って余すところなく語って頂いた。弥生社会の実態を垣間見るのに充分であったと思う。後は進行中のDNA分析を通じ、日本人の成り立ちに繋がる成果が得られればと期待されます。(斉藤亨 記)



見学会「下総国分寺・国府跡」

2019年(令和元年)6月13日に開催 34名が参加

日本各地に遺る国分寺や国府跡遺跡は律令による統一国家のなかでの地域史の原点になる遺跡として大変重要です。友の会では東国の国分寺跡・国府跡の探訪を継続テーマとして H19・27 下野 H20 常陸 H21 甲斐 H23 上野 H27 信濃 H28 相模 H29 上総・武蔵と企画してきましたが令和元年度第1回の見学会では千葉県市川市に遺る下総国分寺・国分尼寺・国府跡を訪ねました。

現地見学に先立ち市川市立考古博物館にて永年当地で発掘研究に携わっておられる山路直充先生から1時間にわたりレクチャーを受けました。

国分寺跡の正式名称は「国指定史跡 下総国分寺跡 附北下瓦窯跡」となっています。北下瓦窯跡は国分寺遺跡の東側台地下を通る東京外環自動車道の工事の際に発見された二基の瓦窯跡で、同時に周辺から工房跡や大量の祭祀遺物も出土しており、国府・国分寺が一体となった下総京の概要をつかむきっかけになりました。

現地探訪はこの北下遺跡から、現下総国分寺境内とその周辺の伽藍遺跡、国分尼寺跡遺跡公園、下総総社跡と巡り、最後は国府跡に建つ和洋女子大東館17階にある文化資料館で出土した国府関

連の遺物を見学、展望テラスから国府跡が推定される市営野球場を中心とした国府跡や江戸川を俯瞰して往時の姿を偲びました。



下総国分尼寺跡遺跡公園



悠久の流れ 江戸川(太日川)和洋女子大展望テラスより

遺跡見学の前後には国重文の「旧徳川家松戸戸定邸」「中山法華経寺伽藍」見学も組入れました。ガイドいただいた松戸シティガイド、市川案内人の会の皆様に誌上を借りて御礼申し上げます。参加会員からは和洋女子大資料館が印象に残ったようで一様に「きれいだった」との感想をいただきましたが、内容は女性会員「テラスからの景観」、男性会員「案内いただいた妙齢の学芸員」のことでした。(中村 記)

クラブ活動 (活動報告)

「古代文化を考える会」＝新しい視点で学ぶ日本の古代史＝

第1回 日本人の起源と倭人の移動 5月18日に開催

参加者は75名。冒頭、佃收先生が考える「歴史研究のあり方」として6点を挙げられ、それらを考慮しながら「古代史」を研究されていることをご披露されました。その中で、

1. 「科学的」であること。－「科学的」とは「根拠(データ)に基づき理論を立てること」で、「理論(仮説)にデータを合わせるのではなく、データに理論を合わせるのが科学である」
2. 「論理的」でなければならないこと。－論理に飛躍があってはならない。「研究」は理論の積み重ねである。
3. 「情報(データ)」は多いほど史実に近づくこと。
4. 「仮説(理論)」は「検証」しなければならないこと。－「仮説(理論)は「検証」して初めて認められること。「定説・常識」になっている「説」でも「検証」がなされていないものが多い。

が、特に印象に残っています。講演もそれに沿うもので、豊富な資料に基づく説明は理論的でわかりやすく、また内容的にも満足のいくものでした。



第1回目はテーマに従い、○日本人

の誕生 ○倭人(天氏)の移動 [1. 呉の倭人 2. 呉越の戦い 3. 東表の倭人 4. 山東省の「倭人(天氏)」、○倭人(天氏)と箕子朝鮮 についてお話いただきました。講演は3時間に及びましたが、参加者も真剣で、充実した会となりました。(斉藤亨 記)

日光道中探索一第2回

古道探索倶楽部 6月22日に開催

この日は長期予報より酷暑が予想された為、散策計画を正味3km程短縮し、建物内の休憩・見学を増やし余裕のある計画に変更しました。当日は雨模様の中、21名の参加者が草加駅に集合。当会も29回と活動を重ね、皆ほとんどが気心の知れた人達の為、我々スタッフも気が緩んでしまったのか、訪問先に一声かけるのを忘れてしまい注意を受けるという恥ずかしい出来事がありました。今後はこのようなことがないように気を引き締めてまいります。



駅を出てすぐに、「おせんさんの像」があります。言伝えによると、草加宿で茶屋を営む老婆の団子が腐りやすいとの嘆きを聞いたある武士から「団子を薄く伸ばして天日で乾かすと保存がきき、食べる時に焼けばいい」と教わり。炭火で焼き塩をつけて出したところ大評判になった、この老婆の名が「おせん」だったことから「おせん餅」と呼ばれ宿場の名物になったという。後に醤油が普及したことに伴い、醤油で味付けし「草加煎餅」として更に大人気となった。高砂八幡神社(八坂神社)の祭神は、誉田別尊、草加宿下三丁の鎮守と聞く。参道中程の世話役さんの計らいで、市指定文化財の「八幡神社獅子頭雌雄一對」の開帳を特別にさせていただきました。縦横1m弱の素晴らしいもので、岩槻慈恩寺の獅子頭同様、浅草より伝わったものらしい。祭には山車にのせ町中を練ったという。次に「草加市立歴史民俗資料館(旧草加小学校西校舎)」に行く。大正時代に建てられた県下初のコンクリート校舎を改修したもので、国の登録有形文化財となっています。

「綾瀬川出土の県内最古(5,300年前)の丸木舟」、「題目板碑」、「弘安六年の「弥陀一尊板碑」等見所満載でした。綾瀬川沿いに国指定記念物・名勝 松尾芭蕉の奥の細道の風景地「草加松原」がある。松が植えられたのは一説によると綾瀬川改修の天和二年といわれ、その長さは1.5kmほどで、参勤交代での大名行列の長さを基準としたという。お昼は、草加市文化会館内の冷房の効いた室でとり、午後からは、チョコレート工場の直売場(平塚製菓)で規格外の特売品を皆先を争って購入しました。

綾瀬川沿いに蒲生の一里塚がある。これは県内の日光道中筋に現存する唯一のもので、県指定文化財となっている。綾瀬川を離れて市街地に入ると真言宗智山派の清蔵院の立派な山門が見えてくる。この山門は寛永15年の建立で、日光東照宮造営を担当した工匠の作で、欄間を飾る彫刻は左甚五郎作ともいわれております。少し趣きを変えたツアーとしましたが、皆さん充分楽しんでいただけたようです。(犬走 記)

県立文書館と近代美術館めぐり

まち歩き研究会 7月12日に開催

午前10時に浦和駅集合、雨模様の日でしたが、なんと予想以上の20名が参加しました。駅から15分ほど歩いて埼玉県庁に到着、そのまま県庁を横切って国道17号線沿いの県立文書館に到着します。この日は、開催中の展示会の見学と文書館の活動についての案内をしていただくのが目的です。



事前に連絡がしてありましたので学芸主幹の加藤さんが説明に当たってくれました。

この埼玉県立文書館は今年で50周年ということですが、最初にその歴史と主な活動内容さらに今年4月に終了した全面リニューアルのポイントについて説明があり、質疑応答も行いました。1日10~15人の利用者があるそうですが、その他に行政に携わる訪問も多いようです。今日の参加者の中にはすでにこの文書館を利用している人や今後活用したいという希望

者も多く、古文書や地図の実際の検索方法や閲覧についての具体的な質問がありました。また、その他の活動としては定期的に行っている古文書講座はいつも定員オーバーの人気だそうです。

文書館には古文書から近年の文書までの歴史的な文化財である多くの記録や絵図、地図、写真が保存され研究されていますが、その中のいくつかを展示し解説するための展示室は今回のリニューアルで充実したということです。そのため、1年間かけて4つの企画展が予定されており、この日は最初の展示『埼玉の“ふみくら”』が開催されていました。文書はどうしても平面的にしかないので、視覚的に工夫し、興味深い展示になるようにしてあるとのこと。そのいくつかを説明していただきましたが、江戸城・天守閣の絵図面や大塩平八郎の手配書、黒く色を変えられた朱印状や異国人が描かれた文書など、県内各地に保存されていた文書を見ながら江戸から明治への時代の変遷がわかる大変面白い展示になっています。来年5月までの今後4回の企画も楽しみになってきました。このあと、県立近代美術館を見学しました。(筑井 記)

クラブ活動 (募集案内)

◆ 円空仏研究黎明期の足跡を紹介 ◆

2019(平成31)年8月22日(木)に「円空仏研究会(第3回)」

◀日時▶2019年(令和元年)8月22日(木) 午後1時30分～3時

◀場所▶埼玉県立歴史と民俗の博物館・講座室(講堂隣り)

◀内容▶円空仏研究黎明期の足跡「県立浦和高校社会歴史研究部の活動」—円空仏が埼玉県で発見されて間もないころ、浦和高校社会歴史研究部は県内円空仏の悉皆調査を行い、円空と幸手不動院とのつながりについて初めて明らかにしました。今回はその成果を東京タイムズに12回にわたりシリーズで連載された(1974年3月)記事を基にご紹介します。

◀費用▶200円

◀申込み▶通常ハガキに氏名・住所・会員番号・電話番号を明記し、〒337-0042 さいたま市見沼区南中野1183-10 斉藤文孝 宛へ メール受付 fumitaka51@tbz.t-com.ne.jp 《問合せ》斉藤 090-4965-8275

◆ 新しい視点で学ぶ日本の古代史 ◆

2019(平成31)年9月1日(日)に古代文化を考える会の第2回研究会

◀日時▶2019年(令和元年)9月1日(日) 13時00分～16時00分

◀場所▶当館講堂 東武アーバンパークライン(東武野田線)大宮公園駅下車

◀テーマ▶倭人(天氏)と高天原

◀講師▶佃 収 先生

◀費用▶資料代 500円

◀問い合わせ先▶斉藤 048-853-6728

【当会への入会をお待ちしています。費用は参加費(資料代)として都度500円をお願いしています(入会費は不要)】

◆ 第30回古道を訪ねて 日光道中その3 ◆

2019(平成31)年9月7日(土)に「古道探索倶楽部」

◀日時▶2019年(令和元年)9月7日(土) 9時30分～15時30分(予定)

◀集合▶東武伊勢崎線草加駅改札口周辺 9:30

◀コース▶東武伊勢崎線越谷駅 ⇒ 中町浅間神社 ⇒ 照光院 ⇒ 大沢香取神社 ⇒ 大林香取神社 ⇒ 下間久里香取神社 ⇒ 東武伊勢崎線大袋駅

◀費用▶資料代等・参加費 300円

◀その他▶歩行距離は約10kmで、史跡巡りをいれると11km少々です。お弁当と飲物は必ず事前に御用意願います。

◀問合せ先▶前日まで犬走(いぬばしり) 048-756-5634 当日 小俣(おまた) 090-3436-9017

◀参加申込み▶8月31日(土)までに、普通ハガキに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して 〒339-0058さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて

*新シリーズ日光道中歴史散策は、東武伊勢崎線竹ノ塚駅より栗橋駅までを8回シリーズにしてお届けいたします。

■友の会ホームページからの「受付フォーム」による参加申込について■

Web 申込の場合、返信メールは出しません。登録はホームページで確認できます

- 1：先日から、講演会・見学会などの申込・登録についてホームページの申込フォームからの申し込みができるようになっていました。申し込んだ場合、申し込み順に連番がつき、登録内容が自動保存されます。
- 2：申し込んだ内容は、友の会ホームページにある[友の会への申込状況]（下の図参照）で、見る事ができます。ここに記載されていれば、申し込みが正しく行われたということです。
- 3：このため（実際には、これがほとんどですが）講演会・見学会・クラブ活動などへの「イベント参加」の場合、申込確認のための申し込んだ方への直接の返信メールを出しません。よろしくお祈いします。

●以下に図で示します。

*登録ボタンのクリックは1回だけお願いします。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

[\[博物館ホームページ\]](#) [\[博物館ホームページ内の友の会\]](#) [\[会費・規約\]](#) [\[役員発表\]](#) [\[個人情報\]](#) [\[管理用\]](#)



●[\[募集中の講演会・見学会のお知らせ\]](#) ●[\[友の会への申込状況\]](#) ●[\[講演会・見学会・クラブ活動の履歴\]](#)

友の会登録情報 [\[友の会ホームページに戻る\]](#)

登録情報を表示する

*ここで自分の登録した内容を確認できます。

登録番号: 10091	藤田 力(15-066)	2019-06-13の「見学会」に参加します。	2019/05/13 13:05:26	イベントへの参加申込
登録番号: 10092	小林洋子(12-109)	2019-06-13の「見学会」に参加します。お世話になります。座席、通路側をお願いします。	2019/05/13 15:27:	2019/05/13 15:27:
登録番号: 10093	小林洋子(12-109)	2019-06-22の「古道倶楽部」に参加します。お世話になります。よろしくお祈いします。	2019/05/13 16:57:	2019/05/13 16:57:
登録番号: 10094	樋口敦也(18-032)	2019-06-13の「見学会」に参加します。	2019/05/13 21:20:10	イベントへの参加申込
登録番号: 10095	船井 亨(或政(12-040))	2019-06-13の「見学会」に参加します。	2019/05/14 10:27:41	イベントへの参加申込
登録番号: 10096	中田 美能里(19-018)	2019-05-25の「講演会」に参加します。	2019/05/14 17:11:03	イベントへの参加申込
登録番号: 10097	松垣 泉(18-014)	2019-06-13の「見学会」に参加します。	2019/05/14 18:37:18	イベントへの参加申込
登録番号: 10098	須賀 美千代(19-009)	2019-06-13の「見学会」に参加します。	2019/05/15 12:59:13	イベントへの参加申込
登録番号: 10099	清水和子(17-009)	2019-06-13の「見学会」に参加します。	2019/05/16 09:57:05	イベントへの参加申込
登録番号: 10105	高野 直明(15-110)	2019-06-13の「見学会」に参加します。三郷市在住です。松戸の見学場所と合流することは可能でしょうか。	2019/05/18 18:44:44	2019/05/18 18:44:44
登録番号: 10106	橋場 泰宏(19-033)	2019-06-13の「見学会」に参加します。よろしくお祈いいたします。	2019/05/18 10:04:18	2019/05/18 10:04:18
登録番号: 10107	小高 秀(14-087)	2019-06-22の「古道倶楽部」に参加します。	2019/05/18 16:44:44	2019/05/18 16:44:44
登録番号: 10108	中村 均(11-103)	2019-06-22の「古道倶楽部」に参加します。草加駅から蒲生の一里塚までをお願いします	2019/05/18 21:05:46	2019/05/18 21:05:46
登録番号: 10109	板原 勇(13-025)	2019-06-22の「古道倶楽部」に参加します。	2019/05/18 21:05:46	2019/05/18 21:05:46
登録番号: 10110	山田 正春(11-068)	2019-05-25の「講演会」に参加します。締切を過ぎてしまいましたが、もし定員に達していなければ是非お祈い致します。	2019/05/18 18:28:27	2019/05/18 18:28:27
登録番号: 10111	植田 鉄男(13-018)	2019-06-13の「見学会」のキャンセル申し込みがありますが、外せない用事が出来たのでキャンセルさせていただきます。	2019/05/20 20:00:45	2019/05/20 20:00:45
登録番号: 10112	日井 栄子(16-053)	2019-06-13の「見学会」に参加します。	2019/05/21 08:31:00	2019/05/21 08:31:00
登録番号: 10113	山部 信之(14-0781-2)	2019-06-13の「見学会」に参加します。	2019/05/21 10:10:48	2019/05/21 10:10:48
登録番号: 10114	大 能 雄(15-072)	総会資料について5月26日開催の総会には急用が出来て出席できなくなりました。ついては、総会資料を6月会報	2019/05/24 16:27:37	2019/05/24 16:27:37
登録番号: 10115	古会 真実子(0000)	2019-05-25の「講演会」に参加します。	2019/05/24 16:27:37	2019/05/24 16:27:37
登録番号: 10116	齋藤 紀子(11-117)	2019-06-13の「見学会」に参加します。	2019/05/24 16:27:37	2019/05/24 16:27:37
登録番号: 10117	小高 秀(14-087)	入会希望者があるのだから申し込み方法が分からない。代理で私が申し込みます。	2019/05/25 21:10:48	2019/05/25 21:10:48
登録番号: 10118	齋藤 紀子(11-117)	2019-06-13の「見学会」に参加します。	2019/05/25 21:10:48	2019/05/25 21:10:48
登録番号: 10119	小高 秀(14-087)	新規会員の紹介です。氏名 児島正真 コジママサノバ 生年月日 1839/5/8	2019/05/25 21:10:48	2019/05/25 21:10:48

“復興の足かせ”から“地域の宝”へ

～震災復興と埋蔵文化財の調査～

2017（平成29）年度、福島県文化財課に1年間派遣され、南相馬市を中心に埋蔵文化財の調査に当たった講師が貴重な体験を語ります。復興に伴う埋蔵文化財の調査は、「復興を妨げている」とも言われました。調査成果を地域に還元し、“地域の宝”として活用する動きなどを通じて、震災復興における発掘調査の意義や、被災地の今を紹介します。

講師の堀口さんは、日本考古学（中世）がご専門。今年初めの企画展「埼玉の官衙」で活躍され、今年度も引き続き展示担当として常設展示の第1、2室（考古）の展示管理のほか、9月1日まで開催中の企画展「北沢楽天と時事漫画」も担当されています。

講師 **堀口 智彦 氏** 当館学芸員

日時 2019年（令和元年）9月20日（金）午後1時半～2時半
（開場：午後1時）

場所 当館講堂 東武アーバンパークライン（野田線）大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 無料

ご参加のお申し込みは、**通常ハガキ**に、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記の上、締切：9月13日（金）までに、下記の宛先へ。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会
返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達はご参加いただけます。

*「友の会ホームページ」の「申込フォーム」からも応募できます。（返信はいたしません）

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

葛西城発掘によって明らかにされた 北条氏と上杉氏の攻防

海と内陸をつなぐ重要拠点であった葛西城は、上杉氏と北条氏との争いや長尾景虎による関東侵攻などによって、幾度となく攻め落とされています。そして本丸の堀跡からは、斬首された女性の頭骨が発掘されています。

このように戦国時代、常に戦いの最前線となった葛西城の攻防を、発掘の成果にふまえ、葛飾区観光課の谷口榮先生からお話しをお聴きします。

そして10月には、谷口榮先生ご案内のもと、葛西城の戦いの跡を見学する予定です。

講師： 谷口 榮 氏（葛飾区観光課主査学芸員）

日時： 9月29日（日）午後1時30分～3時（午後1時開場）

場所： 当館講堂 東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅下車徒歩5分

参加費： 300円

申込み： に、開催日・イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し、〒330-0803

さいたま市大宮区高鼻町 4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 宛

友の会ホームページの申込みフォームからも応募できます。
定員（150名）になり次第、締め切らせていただきます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会